

鶴川東地区新たな学校づくり  
基本計画検討会  
報告書（案）

2023年〇月

鶴川東地区 新たな学校づくり基本計画検討会

## 1 新たな学校づくりの概要について

鶴川東地区の新たな学校づくりを検討するにあたり、町田市教育委員会における新たな学校づくりのイメージを共有しながら検討する必要があったため、以下の内容を踏まえながら、基本計画検討会で意見交換を実施しました。

### (1) 鶴川東地区統合対象校の概要及び統合後の想定児童数・学級数について

#### ■ 鶴川第二小学校（築 48 年）



##### ① 児童数(学級数)

通常学級	2021	2030	2040
児童数	487	348	418
学級数	16	12	14

特別支援学級（2021）	知的
児童数	9
学級数	2

##### ② 学校の主な変遷 昭和 39 年開校。

#### ■ 鶴川第三小学校（築 54 年）



##### ① 児童数(学級数)

通常学級	2021	2030	2040
児童数	426	358	378
学級数	14	12	12

##### ② 学校の主な変遷 昭和 43 年開校。

鶴川東地区統合新設校（2029 年）  
想定児童数・学級数 625 名・22 学級

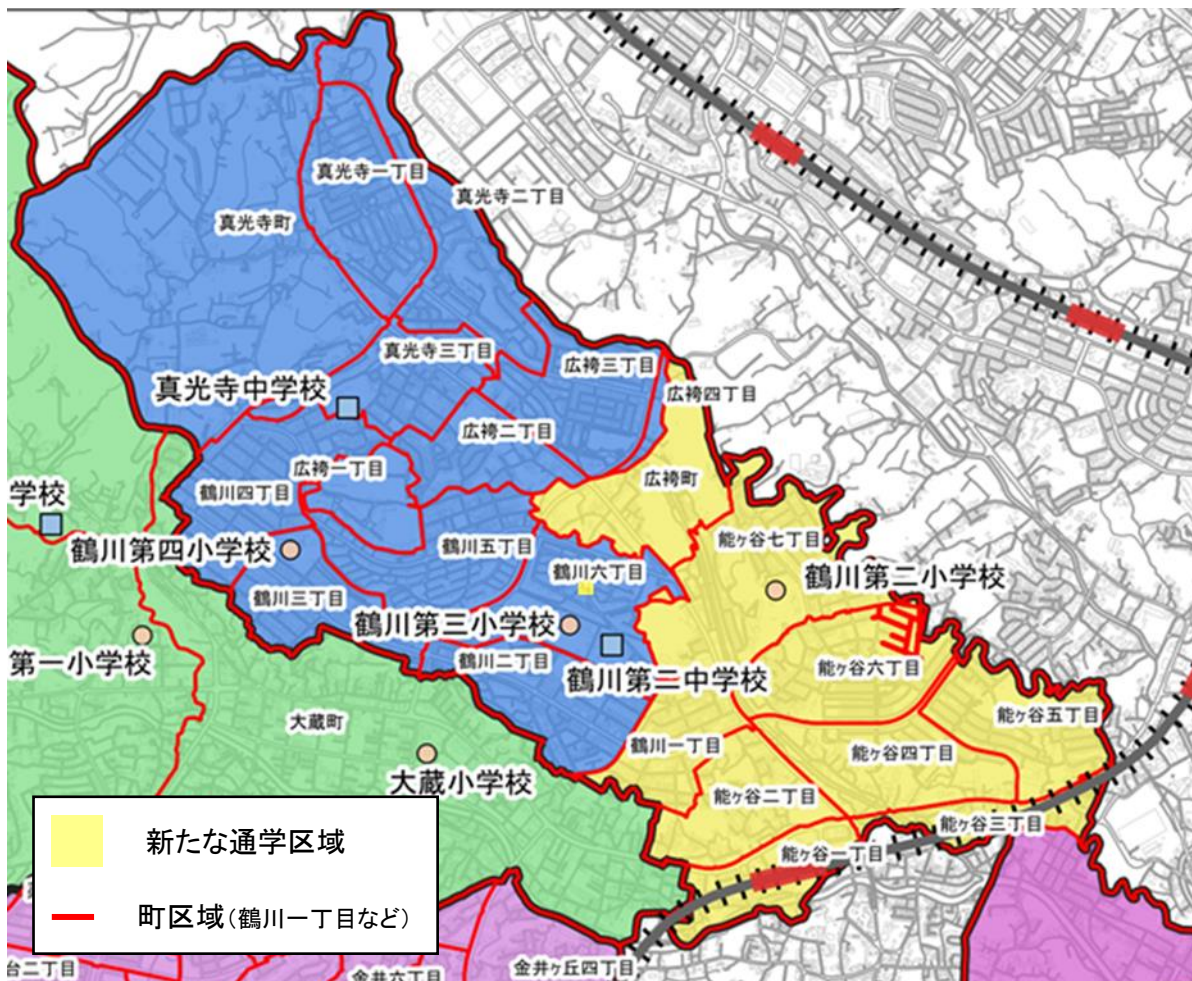
	2029年	2030年度	2040年度
児童数	625	626	725
学級数	22	22	24

### (2) 統合スケジュール

対象	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
鶴二小	既存校舎		新校舎建設			☆新校舎使用	
		仮設校舎建設	統合	仮設校舎		→ 取り壊し	
鶴三小（一部）	既存校舎		※既存校舎				

2026年度：鶴二小・鶴三小が閉校し、統合新設校開校  
※鶴三小既存校舎は2026年度から鶴四小と鶴三小（一部）の統合校で使用する

(3) 新たな通学区域図（鶴川1丁目、能ヶ谷1～7丁目、広袴町）



(4) 学校候補地となる現鶴川第二小学校の校地状況について



- 【計画地の特徴】
- 敷地内に段差があり、校舎を建設可能なスペースが限られている。
  - 敷地への車両アクセス動線が1か所であることや、仮設校舎も建設することから、工事中の安全確保が課題。



正門へのアプローチ



敷地北側の擁壁

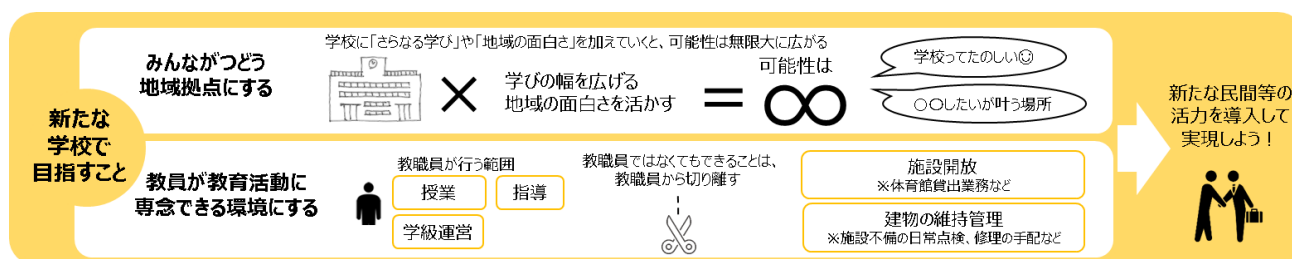
- 住所：東京都町田市能ヶ谷 7-24-1
- 地域地区：第一種低層住居専用地域
- 敷地面積：約 22100 ㎡
- 容積率：80% 建ぺい率：40%

## (5) 新たな学校の運用体制（地域施設としての新たな学校）について

町田市における新たな学校を地域の活動拠点とするにあたり、子どもたちができる活動を増やすこと、子どもたちが使っていない時間に地域の方が一部の教室などを利用して活動できるようにすること、また、教員ではなくてもできることは教員以外が行うことで、多忙化する教員の負担を軽減することを実現するため、民間のノウハウを活用した仕組みづくりを検討しています。

本基本計画検討会では、新たな学校の地域への開放や教員の負担軽減に関する情報を共有しました。

## 〈図〉新たな学校で目指すこと



- 基本計画検討会における検討内容
  - ・新たな学校への歴史の継承について
  - ・新たな学校の育てたい子ども像について
  - ・新たな学校の校歌・校章について



## ■ 新たな学校への歴史の継承について

鶴川東地区の新しい学校においても、各校の教育活動などに関わっていただいている方々や地域の方々に愛着をもっていただき、引続き、鶴川東地区の子どもの教育活動にご協力いただけるよう、各校の歴史や想いの継承について、検討会で意見交換したので報告します。

### (1) 検討会における物品・活動等の検討項目及び方針

#### ■ 鶴川第二小学校

分類	例	継承・保存・引き取り方法の方向性
卒業制作	12回生レリーフ（体育館）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル保存</li> <li>・個人を特定できるものはできる限り返却</li> <li>・様々な方法を検討し、できるだけ卒業生が継承方法を決められるようにしたい</li> </ul>
	13回生レリーフ（1F石油庫前）	
	22回生レリーフ（1F用務員室前）	
	5年生レリーフ（1F作業室前）	
	24回生卒業生レリーフ（1F-2F階段踊り場）	
	23回生卒業生レリーフ（北側昇降口）	
	17回生卒業生レリーフ（北側昇降口）	
	48年度レリーフ（東側昇降口）	
5年生レリーフ（東側昇降口）		
寄贈品 記念植樹 植栽	校歌（体育館）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル保存</li> <li>・卒業記念植樹が敷地の周辺に植えてあるので、敷地の緑化基準を満たすためにもそのまま残せるのであれば残したい</li> <li>・敷地北側の大きなメタセコイヤやイチヨウの木については、新しい学校の廊下の木質化に利用してもらいたい</li> </ul>
	校章（昇降口上）	
	記念花壇創立55周年（プール棟）	
	卒業記念樹（バスケットコート横）	
	樹木（校舎前）	
賞状 トロフィー 写真など	賞状・トロフィー（玄関）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル保存</li> <li>・賞状は額に入っているから大きいので、例えば外してファイリングするなど、できる限り残す方向で検討していきたい</li> </ul>
	賞状・トロフィー（1階集いの場）	
	学校写真（1F集いの場）	
	サイン（各教室入口など）	
教育活動	スキル科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の大人と児童が関わることができるともいい取組なので、引き続きやっていきたい</li> </ul>

#### ■ 鶴川第三小学校

分類	例	継承・保存・引き取り方法の方向性
卒業制作 賞状 トロフィーなど	卒業制作・賞状・トロフィー・校歌・標語（昇降口）	
	レリーフ（昇降口）	
	レリーフ2（3・4・5年昇降口）	
寄贈品 など	創立30周年記念（校舎側）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化して保存</li> <li>・昔から引き継いでいる物品や地域の物品で、手に取って触れることが重要なものについては、取捨選択して残せるものは残せたらいい</li> </ul>
	1993年卒業記念（1F 1-1 教室前階段）	
	校歌（1F 視聴覚室前）	
	1993年卒業記念2（1F クラブ室前便所）	
	第10回卒業記念（2F 南側階段）	
	昭和50年卒業記念・昭和60年校歌（2F 体育場）	
サイン（各教室入口など）		
郷土資料 和室など	写真・郷土資料（2F 郷土資料室）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル化して保存</li> <li>・寄贈品と同様、取捨選択して残せるものは残せたらいい</li> <li>・鶴川村史や学校史については、古い冊子で残っていると、手に取ってみることができ歴史を感じることもできる</li> </ul>
	和室	

## (2) 基本計画検討会での意見内容

## 鶴川第二小学校グループ

- 卒業制作などで、個人を特定できるものはできる限り返却していきたい。
- デジタル化して保存することは前提として、できるだけ卒業生が継承方法を決められるようにしたい。個人が特定できない者やみんなで作ったようなものについては、例えば周年行事やホームページなどで卒業生に対して、こういったものがあるので引き取りたい方がいないか募集して、いた場合には、その卒業生たちの中で引き取り方法についても考えてもらうようにしたい。
- 樹木については、卒業記念植樹が敷地の周辺に植えてあるので、敷地の緑化基準を満たすためにもそのまま残せるのであれば残したい。敷地北側の大きなメタセコイヤやイチョウの木については、例えば新しい学校の廊下の木質化に利用するなど、設計の段階で工夫してもらいたい。
- 賞状やトロフィーについては、賞状は額に入っているから大きいので、例えば外してファイリングするなど、できる限り残す方向で検討していきたい。
- 学校の活動について、これまで行ってきたスキル科や大人の学校 7 年 1 組などの取組は、地域の大人と児童が関わることができるとてもいい取組なので、引き続きやっていきたい。

## 鶴川第三小学校グループ

- 基本的には写真や映像などデジタル化して残すことが良い。
- 一方で、昔から引き継いでいる物品や地域の物品で、手に取って触れることが重要なものについては、取捨選択して残せるものは残せたい。
- 鶴川村史や学校史については、デジタル化で誰でも見られるようにすることも必要だが、古い冊子で残っていると、手に取ってみることができ歴史を感じることもできる。

## (3) 歴史の継承に向けて

上記の検討会の意見を踏まえた配慮や工夫をしていただくとともに、新しい学校の児童が、統合校の歴史を感じられるような工夫を検討していただきたい。さらには、当時の学校のことを地域の方々も思い出せるような工夫をするなどして、地域の学校として愛着をもてるよう配慮をお願いしたい。

## ■ 新たな学校の育てたい子ども像

鶴川東地区の統合新設校に通う子どもたちについて、どのような子どもに育てて欲しいか、これを実現する教育理念をどのようなものにするか、以下の鶴川第二小学校・鶴川第三小学校の教育目標も確認しながら、育てたい子ども像の検討を行いました。

### (1) 鶴川東地区の小学校の教育目標

#### ① 鶴川第二小学校

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童に生きる力を育むことを目指す。

○生き生きした子ども（知・徳・体がバランスよく成長した子ども「生きる力」）

・自分で学ぶ みんなで学ぶ（すすんで学び、互いに高め合う子ども「思考力」「主体性・協調性」）

・自分を大切にする みんなを大切にする（自他の大切さを尊重し行動できる「人権」「人間性」）

#### ② 鶴川第三小学校

これからの社会を切り拓くための資質・能力を身に付け、予測困難な時代に主体的に向き合い、自己肯定感をもち人生をより豊かなものにする力を育み、持続可能な社会の創り手となる児童を育成する。

○正しいことをやりぬく子（公正・公平な態度で生活できる子「判断力・行動力」）

○友だちを大切にする子（やさしい心を持ち、自分も人も大切にできる子「人間関係形成力」）

○すすんで考える子（課題意識を高くもち、解決のために努力できる子「問題解決力」）

○体をきたえる子（強い精神力で、前向きに努力できる子「実践力」）

### (2) 検討会における委員の意見

・地域がみんなのことを見守っているからねというメッセージを出していきたい。地域の方たちとの思い出、体験が、この地域に残って皆さんと先に進んでいきたいなという大きいモチベーションになっているので、新たな学校が子どもたちにそんな体験をさせてあげられる空間になっていけばなと思っている。

・学校が楽しいと毎日学校に行きたいと思える子になってほしい。

・物事を全て自主的にできる子に育ててほしい。

・立場が上の人からの指示で動く人間ではなくて、自分で考え行動できる自主性を持った児童になってほしい。

・いじめなどの子どもの将来を左右するような問題のない、楽しく毎日通える学校になってほしい。

・色々な場面で赤信号を守れる（守るべきことは守る）子どもたちになってほしい。

・自己肯定をできる人になってもらいたい。それが生きる力になり、頑張れる根底になっていく。



- ・今までの様々な経験をされている地域の方々と協力し合っって子どもの見守りをし、子どもたちも挨拶して地域とも仲よくやっていけば、子どもたちも良い子に育つと思う。
- ・自分から発想し、人間的な、動物的な感覚を養うような感じで見たり、聞いたり、みんなで一緒に協働していろんなことをできる子。
- ・年下の子とも年上の子とも仲よく遊べるようになってほしい。
- ・意見募集で寄せられた意見を生かして行ってほしい。
- ・不安定な時代でも自分の気持ちをしっかり持って、考えをしっかり持ってやっていける、乗り越えていけるたくましい人間に育ててほしい。
- ・何か1つのことに熱中して、毎日をすごく楽しくできることを見つけられるような子になってほしい。
- ・多様性を学んで、相手の個性を尊重して、自分の意見も言えるような子に育ててほしい。
- ・困難を乗り越えられる生きる力を持った子どもに育ててほしい。
- ・町田市教育プランの教育目標、「夢や志をもち、未来を切り拓く鶴川っ子を育てる」ということが最終目標なのかなと感じる。
- ・他者や集団と関わりながら、その中でも自分らしく力を発揮していける子になってほしい。

### (3) 統合新設校の教育目標策定に向けて

検討会では、上記(2)のように、自ら考え行動できる主体性や、多様性を認め、相手を尊重するとともに、自分も尊重できる心を持ってほしいこと、困難を乗り越えられる力を持った子になってほしい、などの意見が挙がりました。

また、育てたい子ども像だけではなく、地域の大人がいつも見守っていることを感じて育ててほしいことや、いじめなど子どもの将来を左右するような問題がなく、笑顔で通いたいと思える学校をつかってほしいといった子どもを育てるにあたって大事にしてほしいという観点についても意見が挙がりました。

今後、両校の学校長には、これらの意見や意見募集の内容を踏まえ、鶴川東地区の統合新設校における教育目標を考えていただきたい。

## ■ 新たな学校の校歌・校章について

鶴川東地区の新たな学校の校歌・校章について、新たな学校に通う子どもたちの円滑な合流の実現の観点から校歌・校章の作成時期や方法について基本計画検討会で意見交換しましたので報告します。

### (1) 校歌

#### ①作成時期

- ・新入生の入学式などのことを考えると、校歌も校章も統合前にあったほうが良い。学校名が決まったあと、統合までの3年間で決めていきたい。
- ・統合してから作るとなると、ただでさえ統合後の学校運営で忙しい先生方にさらに負担をかけるので、校歌も校章も統合前に作ったほうが良い。
- ・事前の両校の交流行事の一環として作成するのも良いかもしれない。
- ・統合時に卒業する子どもたちが考えることになっても、後輩たちに歌ってほしい、卒業生も統合に関わりをもったという気持ちを持ってくれることから、統合前に作って良いのではないか。

#### ②作成方法

- ・事前の両校の交流行事の一環として作成するのも良いかもしれない。
- ・作成方法について、著名な人に頼むなどの場合は予算面も関わってくる。地域の方や卒業生に音楽家やデザイナーとかがいてやってみたい！という人がいたらお願いしてもいいかも。
- ・昔の校歌はたいがい地域のゆかりのある人に作ってもらったようだ。
- ・作成については、子ども達、地域の人たちの思いを聞いて、最終的には専門家・プロに頼んでいく形が良いのではないか。その専門家が地域の人かどうかはこだわらない。
- ・鶴川第三小学校の校歌は、校名が入っていない、グローバルな内容の良い校歌だと思う。地域として残していける方法を何か考えたい。

## (2) 校章

### ①作成時期

- ・新入生の入学式などのことを考えると、校歌も校章も統合前にあったほうが良い。学校名が決まったあと、統合までの3年間で決めていきたい。
- ・統合してから作るとなると、ただでさえ統合後の学校運営で忙しい先生方にさらに負担をかけるので、校歌も校章も統合前に作ったほうが良い。
- ・事前の両校の交流行事の一環として作成するのも良いかもしれない。
- ・統合時に卒業する子どもたちが考えることになっても、後輩たちに歌ってほしい、卒業生も統合に関わりをもったという気持ちを持ってくれることから、統合前に作って良いのではないか。

### ②作成方法

- ・事前の両校の交流行事の一環として作成するのも良いかもしれない。
- ・校章について、下書きだけ子どもたちから募集して、最終的にはデザイン会社に頼むのもありかも。
- ・鶴川冒険遊び場のマークのデザインは子どもたちが自分でつくった。子どもたちもやろうと思えばできる。
- ・校章は現在の両校のデザイン、エッセンスを感じられるものにできたらいい。
- ・校章から鶴の姿がなくなったら少し寂しく感じる。
- ・鶴川第二小学校のデザインは校章作成時にリデザインした。保護者にデザインをしている方がいて、その方にやってもらった。作るたびに少しずつ変わっている。
- ・作成については、子ども達、地域の人たちの思いを聞いて、最終的には専門家・プロに頼んでいく形が良いんじゃないか。その専門家が地域の人かどうかはこだわらない

## (3) 校歌・校章の作成に向けて

2026年度の学校統合時に円滑な合流が実現できるように、校歌・校章を作成したり、一緒に歌ったりできるよう進めてほしい。

また、作成にあたっては、子どもたちや地域の想いを大事にしながら、今後も残っていくものにふさわしい内容を作っていただきたい。

### (参考) 他自治体等における作成方法事例

作成方法	内容
公募	市の広報や学校だよりなどで公募し、選考会などで選定
児童の案	児童の案を元に先生や専門家が修補、選考会などで選定
地域に縁のある人に依頼	町田市や地域に在住または出身の方に依頼
地域の大学等と連携	地域の大学と協力して作成。
学校の先生による作成	統合する学校同士または統合新設校の音楽や国語、図工の先生などに作成を依頼
専門家に依頼	作詞家や作曲家、デザイナーに依頼